

京交山岳部報

今月のテーマ 《 渋い山へ 》

〔第1789回例会〕★★★

大 棚 入 山 2375m

日 時 6月1日(金)～3日(日)
 集 合 山科駅 20:00
 コース 京都東IC-中津川IC…宮ノ越
 …大棚入山
 担当者 三橋 勉(☎565)
 備 考 前夜発マイカーで行きますので連絡のこと。

〔第1790回例会〕★

第10回京都府環境月間
 環境美化行動の日、クリーンハイキング

沢 ノ 池

京都岳連自然保護委参加

日 時 6月10日(日)
 集 合 AM8:45 京都駅烏丸口JRバスのりば。
 コース 京都駅-菩提寺…菩提滝…沢ノ池…三宝寺
 備 考 貸切バスです。申込は早目に傷害保険料 50円
 担当者 奥村(☎791-7450)

〔第1791回例会〕★★

北 山

タ カ イ オ (△801.3)

日 時 6月17日(日)
 集 合 壬生 8:00
 コース 壬生-洞…△801.3タカイオ(往路下山)
 担当者 大槻 雅弘(☎544)
 備 考 北山を楽しく歩きましょう。

〔第1792回例会〕★

府県境シリーズ

点名「宮 尻」(△510)

日 時 6月24日(日)
 集 合 壬生 8:30
 コース 京都-瀬田-鹿跳橋-宮尻・桶井…△510…宮尻・桶井-裏白峠-宇治田原-京都
 地 図 朝宮 1/2.5万
 担当者 津田 実(☎870)

今月の集会

日 時 6月11日(月) PM6:30
 場 所 厚生会館4F大教室

企画運営委員会

日 時 6月19日(火) PM6:30
 場 所 厚生会館4F大教室

例会の各記号について

- ★ ファミリーでリクレーシヨンの登山
- ★★ やや、技術と体力がいる登山
- ★★★ 技術と体力がいる登山
- ★★★★ 高度な技術と体力がいる登山



機 能 性 食 品

岡 田 茂 久

何にも増して、健康が最高に価値あるものと社会的に認識され、国民総健康志向の今日、厚生省の新開発食品保険対策室というたいそうな機関が音頭を取り、全国の二百数十社が開発に取り組んでいるという機能性食品というものが話題になっている。

普通の食品の形態はしているが、その中にある特定の成分を強化して、薬のような効能が期待出来る食品や飲料のことで、一応、厚生省の定義では「体調調節機能を備え、生体防御、体調リズムの調節、疫病の予防と回復等が期待できるもので、慢性病や成人病を予防するもの」おまけに「機能性食品の開発で長寿社会で高騰する医療費を抑制する」という、なにやら政策的な目的まで挙げられている夢のような食品である。

最近テレビのコマーシャル等でもよく見かける、飲む繊維のファイブミニ、ビフィズス菌入りのチョコレート、鉄分強化の鉄骨飲料等。以前からあるヤクルトやポカリスエット、カロリーメイト等も機能性食品といえるものであろう。

食品に対して我々が求めるものは、生命保持の為の栄養機能、食べて旨いという嗜好性等であるが、それに機能性食品というような、第三の機能といえるものを付加するという考えがでてきたということである。

登山用の食料を考えると、まず消化吸収が良く栄養のバランスがよいもの。口に合った食べやすいもの。軽くてかさばらず携帯に便利なもの。調理が簡単で手間が掛からないもの。腐敗し難いものであること等が条件として挙げられるが、これに機能性食品というものの開発が進めば理想的な登山用食料が出来るのではと期待できる。これに安価で簡単に手に入れることが出来れば言うことがないのだが。

どんどんグルメ志向がエスカレートする京交山岳部ではあるが、一度は登山用の食料とはと原点にかえて考えることもしたいものである。

かつて京交山岳部にはN先輩が開発した忍術兵糧丸と称するものがあったが、これは登山用機能性食品のはしりといえるのではないか。将来、筋肉疲労回復用にアリナミン入りのビスケット、インドメタシン含有のチョコレートというようなゲテ物も現れるかもしれない。

しかし、我々はヒフィズス菌、鉄分、オリゴ糖、カルシウム、食物繊維等が強化されていると書いてあれば、なんや知らんが身体に良いんだろうと思っているが、栄養素や成分は互いに何らかのバランスの基に食品を構成しており、ある特定の成分だけを取り出したり強化したり、新たに加えたりすると元の機能を失うばかりか、害作用が表われるという研究もある。

コマーシャルリズムに躍らされ、しばらくは人体実験をされているようなものかもしれない。

そういえば、あの鉄骨飲料のコマーシャルを見ると、血液増強を強調する可愛いギャルたちの手ぶりも、台高山脈の谷間の山ヒルの体の振りに似ていることを思い出してしまうのである。

〔第1779回例会〕

麻布（まぶ）山と前黒法師山

三 橋 勉

山科駅を午後8時に出発し、浜松ICから北上し、天竜川沿いに水窪まで走り、ダムサイドの休憩所で仮眠し、翌朝6時に吊橋を渡って対岸の山道を歩き出した。急な植林道を登って行くと突然、ドカーンと大きな鳥威しの音がして、びっくりさせられた。

植林道をすぎ伐採された見通しの良い処で一服する。下にはダムがあり、向う側の尾根に建物が見えた。高度を稼いで行くにつれて、高い山々が見えだし、その中に、昨年登った一等三角点熊伏山も姿を現した。

から松林や大きな桧林の中を進み、高度1,200mの辺りで朝食にする。そこから少し上部に、風格のある鳥居があり、くぐると御神体とおぼしき大木があった。幾重にも幹が束になっていて何の木かわからなかったが、裏へ回りこむと、ブナの大木であることが解った。

その先の造林地の看板をすぎたあたりから、また急坂となり、喘ぎながら登っていると、何か動物の泣き声をしたと思ったら、4頭の鹿に出くわした。

尾根の合流点で南面の展望が良くなり、真下にダムが見えその向こうに常光寺山、門桁山、灰縄山、京丸山などが見えた。

この付近から緩やかな広い尾根の登りとなり、壊れた小屋を過ぎると山頂らしき処に標識があったが、三角点が見当たらなかった。最近三角点探しの山が多くなり、地図とにらめっこして、そこから南南西の方向、100mの地点に二等三角点を見付け出した。ここは、自然林の中にあり、なかなか解らない処にあった。

南面の方向へ行くと、前黒法師山が見え、その左後方に残雪交じりの黒法師岳一等三角点が見え、まだかなり遠くに見えた。そのまた左奥に南アルプスの山々が真っ白の冬装束のままであった。

一旦くだって登り返すと、三等三角点の前黒法師山に到着した。展望はなかったが、良い感じの山頂であった。

天気が下り坂であったので、ここから引き返す途中で、雪山を見たせいでもないが、早々と雪が降って来て、今まで見えていた山々がガスで見えなくなって来た。高度が下るに従って、雨になり下に降りた時には、本降りになっていた。

今日のテント地点をどこにしようかと、車を走らせながら候補地を考えていると、愛知県の東栄町に高木さんが以前泊まった事があるという設楽(したら)城跡の、千代姫荘へ行くことにする。早速屋根付きの休憩所にテントを張らせてもらって、お風呂だけ入れてもらってゴキゲンさんとなる。

翌朝はどしゃぶりの雨となり、とにかく西の方向に車を走らせている間に、一宮IC付近で雨が

止んだので、西名阪に入り四日市ICでおり、鈴鹿の尾高高原（三重県民の森）から、尾高山533mに登り、鈴鹿スカイラインを越えて帰って来た。

〔コース・タイム〕

4月6日 山科駅20:00-水窪ダム23:30(テント泊まり)

4月7日 テント地5:30-吊橋5:50~6:00…取り付き6:08…伐採跡6:40…朝食7:25~8:25…鳥井8:26…南面展望台9:50…麻布山2等三角点10:38~50…展望台11:00~20…前黒法師山12:15~13:15…麻布山14:10…展望台14:25…鳥井15:15…伐採跡15:45…吊橋16:10-東栄町設楽城跡18:00

4月8日 設楽城跡8:10-豊川IC9:15--宮IC11:00-名古屋西IC11:20-清洲IC11:10-四日市IC11:45-尾高山キャンプ場12:15~35…尾高山14:00~15:15…車止15:55~16:05-鈴鹿スカイライン16:30-武平峠16:50-栗東IC18:10-京都東IC18:25

〔参加者〕伊藤 潤治、三橋 勉、他1名

〔第1783回例会〕

大 山 (オオヤマ)

奥村 弘 信

府県境シリーズで登って来たこの山は、京都府と兵庫県境の一番北にあって、高さこそ低いが位置と円錐形の姿に興味を抱かせ、また近くに城崎温泉や出石町があるので下山後の楽しみもあり、軟弱組には放っておけない山であった。なお部報にはこの山を三原山としているが、地元で聞いて大山と分かったので訂正する。

壬生を7時02分に出発し、国道9号を北上し福知山を通過して与謝峠を越える。加悦町で旧加悦鉄道の駅舎跡が「加悦SLの広場」となって各種の古いSLや貨客車などが展示されているのを有料で見学したが、これは思いがけない楽しい事であった。国道178号に出て比治山峠を越える頃から激しい雨が降り出し、先行き不安になったが、久美浜町に出てからやっと止んだ。だがまだ雲が厚く垂れ込めているので何時降られるかも知れない不安を残し、三原峠を越えて兵庫県側に入り、三原の林道に入って簡易水道の建物の前に駐車したのは11時23分であった。

駐車地から林道が延びる山間の正面に、目指す大山はこんもりとした円錐形の姿で、案外近くに低く見えている。これなら時間もかからないだろうと歩き出し、近くの田で耕運機を使っている人に山について尋ねたところ、山の名は三原山ではなくて大山(オオヤマ)であると教わり、さらに地元でも余り登らないので道はないとの話であった。それで林道に接している山の裾に取り付くか、手前の小谷から取り付くのがよいか迷ったが、小谷から行くのが登り易そうなのでここから登り出した。

小谷に沿って湿地を歩き、やがて左の竹藪に入る。猪が喰い荒らしたと思われる筍の皮が散乱していたが、この様子では相当の数があるのだろう。竹藪を抜けて雑木の支尾根に出てひと息つく。

雑木は粗いので抵抗なく進めたが、やがて茨が多くなって左の杉林へ入る。杉林は急斜面で滑り易く、落ち葉でどうにか踏み応えられ、そのうち猪の足跡を見付けてこれを辿るのがよいと分かる。さすが獣はいい所を選んでいると感心するが、ひと汗もふた汗もかかされた所であった。やっと右から来る尾根に出て左へ方向を変え、雑木の急斜面を漕ぎながら登ると間もなく頂上である。小谷に取り付いてから山頂まで僅か52分ばかりで、12時30分に到着した。

大山の山頂は広い台地で、やや北寄りの朽ちた櫓の下に二等三角点334.5mが据わっている。雑木の木立ちに包まれているので視界は全くなく、日本海や久美浜湾が眺められるかと期待していたが当てはずれであった。三角点よりやや離れた所で弁当を開くが、雨こそ降らなかったが気温が低く、食事中手が冷えて寒かった。

滞頂1時間で登って来た通りに下山するが、杉木の急斜面は慎重に下った。林道に下り立ってからワラビなどを摘み、14時20分に駐車地に戻って来たが、心配した雨はとうとう降らず幸いであった。

帰りは飯谷峠を越えて円山川を渡り、城崎温泉で汗を流し、さらに今日もうひとつの楽しみである出石町の名物皿蕎麦で味覚を楽しむ。山と温泉とグルメに満足し、こんな山なら何時でも参加したいし、こんな山は他にないかなどと勝手な事を言いながら帰途についた。

平成2年4月29日(日)祝日

[コースタイム]

壬生7:07→須知8:12~8:23→加悦町「加悦SLの広場」9:44~10:10→豊岡市三原林道駐車11:23~11:38→小谷取付11:50→支尾根12:05→稜線12:20→大山Ⅱ△334.5m(昼食)12:30~13:30→取付箇所14:05→駐車地14:20~14:40→城崎温泉14:57~15:58→出石町16:35~17:27→須知19:15~19:40→阪急桂駅20:30

[参加者] 岡田、津田、横井、古市、渡辺夫妻、和田夫妻、方山、山岡兄妹、西尾、近藤、馬淵、奥村 計 15名

[第1785回例会]

遠い^{おいづる}笈ヶ岳はいつ登れるか

大槻 雅弘

大笠山に登った時、あと一步で届かなかった。山姿は、一番近くからは大笠山であったが、野谷荘司山、三方岩岳からも見ている。

奥美濃の地域からは外れているが「ぎふ百山」の最後に書いてあったり、「日本百名山」で深田氏の後記を読んで、いずれどうしても登らねばと思っていた山、それが笈ヶ岳であった。

その笈ヶ岳を例会に出したところ、参加者2名となり少しメンバー不足で不安を感じていたら、部外の人2名の参加を得たので絶対登れると心勇んで出発したのである。

採ったコースは、白山一里野から山毛樺尾山-冬瓜山-笈ヶ岳のコースである。

天気予報は、少しくずれると言っていた。でも、初夏を通り越した暑さに、久し振りテント2泊

分の荷物は、シャツ一枚でも汗がポタポタと落ちる。

急登の尾根に、多くのカタクリの花が満開で我々を迎えてくれた。それは「カタクリ尾根」とでも名付けたいような群生地。喘ぎながら高度を稼ぐと残雪の上に出て、広い山毛櫛尾山に辿り着いた。勿論、三角点は雪の下。ピークより少し外れた処に、テントの設営を終えた頃ポツポツと天気はくずれ出した。

雷と、雨で明けた朝、予想以上に天候はくずれ、出発を4時間遅らせたが、回復する兆しなし。しびれを切らして、偵察に出る。

ガスの中、雨具を着てピッケルとザックの中はアイゼンという装備。細い尾根と、予想外のブッシュに悩まされ進む。まさか、ピッケルがブッシュに当り邪魔になるとは思わなかった。ふと見上げると、3~4m上部に赤い布切れが着いている。「アアーだめだ」とおもわず唸る。

なんと雪の少ないことか、これではどうしようもない。あきらめて引き返すことにする。

テントに戻り、話し合った結果下山することに決め、来春再アタックしようと約束する。折角、日程調整して来たのに、このまゝ帰路するのは残念と、同じ白峰1/5万地形図の白抜山と鷲走ヶ岳へ登る為に、手取川ダムに見える東ニロ部落の上部に二夜目のテントを張った。

昨夜とは打って変わった、小鳥のさえずりで目を覚ます爽やかな朝を迎えた。891mの白抜山を一旦で登り、そして鷲走ヶ岳2等三角点△1096.6mは良く整備された登山道を30分ばかりで登った。素晴らしい展望に、手の届かなかった笈ヶ岳から大笠山の稜線が遥彼方に望め、真白に雪を覆った白山、眼下には手取川ダムに堰止められた湖が美しく大陽に照らされて映えている。アア残念、一日の違いでこうも天気が変わるとは、本当にここから眺める笈ヶ岳は遠い。まだ、陽は中空にも斜していないし、京都まで道は遠い。もう一つ登ろう。

福井の大野1/5万から一乗山△740.8mの一等を拾って行くことにする。しかし、番外なので地図を1/20万地形図しか持ち合せていない。とにかく、磁石があれば登れるだろうと谷をつめる。1時間半、ヤブを漕いだ処、立派な林道に飛び出した。三角点ヤーイとばかり、磁石で方向を定め、ヤット1等の石を見つける。ここからも、白山がゆったりとした姿を見せてくれた。

復路は長い林道を下ったが、途中白椿岳719mに寄って下山した。

結局、笈ヶ岳へは登れなかったが、山毛櫛尾山(3等)ー白抜山(独標)ー鷲走ヶ岳(2等)ー一乗山(1等)白椿山(独標)と1.2.3等の山へ登り、独標も入れると5山を稼ぎ、少し欲ばった、そして予想もしなかった山旅を終えた。

1990. 5. 7

〔参加者〕 大槻 雅弘、三橋 勉、他2名

〔コースタイム〕

4月28日 東IC6:00-9:40-里野10:10...13:45山毛櫛尾山

29日 テント7:55...9:30ピーク1271手前...10:30テント14:30...
16:30-里野-17:45テント地

30日 テント7:00...7:10白抜山...8:40鷲走ヶ岳...10:00テント11:00
-車止13:00...15:15一乗山...16:20白椿山...17:00車止17:05

…21:00 帰洛

〔追加例会〕

山梨、山の旅(第1日目)1990年5月3日

茅^{かや}ケ岳 △ 1,703.5 m

横井 襄二

心配された天気も大した事もなく、0時過ぎ東インターを後に一路東へ。諏訪湖、韭崎を経て、今日の目的の茅ヶ岳ふもとの大明神登山口に着く。先速朝食、津田さんの奥さん手作りの鯖寿司と熱い味噌汁その他で朝から豪勢だ。

8時前に登山口を出発。ゆるい登りの巾2m程の林道を北へ、道の両側にはボケ、山吹、一人しずか等の野の花が一斉に花をつけている。郡生ではないので、かえって可憐である。赤松と1cm程の深みどりの、実に鮮やかな新芽を出した、から松の林をゆっくりと登る。林道が違って山道を少し行くと、女岩に着く。此の岩は沢の末端にあって高さ10m巾40m程の湾曲したもので、クラックから5~6本の筋状の水を落している。地元の水源にもなっているらしいが、非常に水量は少なく、殆ど伏流水として何処かに顔を出しているのだらう。

少憩の後出発、右に折れて急な登りとなる。樹木は一変して大きいくぬぎ?の林となる。未だ新芽は出ていないし、樹木が密生していないので沢全体は明るい感じだ。25,000の1では途中で右に折れて尾を登ることになっているが、とことん沢をつめ喘ぎながら登ること40分程で稜線乗越に着く。

こゝから少し登った所に「日本百名山」の著者の深田久弥氏の最期の地点がある。見過してしまいそうな小さな木の柱に「深田久弥終焉の地」と、やっと判読できる文字がある。富士山が見える最高の場所であるが氏としては非常に残念であった事と思はれる。合掌。

稍やせたきつい尾根を登る。低い灌木や手頃な岩があり四輪駆動が使えるので今迄の登りよりピッチが早い、ほどなく茅ヶ岳(1,703.5m)の三角点につく。山頂からの展望は素晴らしい。南の方の富士山は白い雲海より8合目付近から頭を出し、その姿は春がすみもかゝり優雅そのものである。西から北丹沢、大菩薩嶺、八ヶ岳、東北には北岳等の南アルプスの雪をいただいた連峰が望める。

セレモニーの後ビールで乾杯。思ったよりの好天に恵まれて最高の一時である。

昼食後は富士山を背にして登った道を今度は正面に見て名残を惜しみながら下山。1時間少々で登山口に着く。

時間の余裕があるので、近くの御岳昇仙峡の、岩山と緑が相なす自然の景観を見ながら下り、甲府市内へでる。市内は武田の看板がやたらと目につく、さすが武田の街である。武田神社を経て石和温泉へ。夕食後早い時間に夢路をたどる。

明日の甘利山と千頭星山の登山、それにT君持参の甲州産、京都経由、甲州着の里帰へりワインがどんな味をするか楽しみに……………。

山梨・山の旅(2日目)1990年5月4日

甘利山 △Ⅲ 1,671・6mと 千頭星山 △Ⅲ 2,138・5m 登頂記

津田 実

風林火山で有名な甲斐の国へと繰り込んだ酔狂者は、山声雪語氏の「雨天の山行には心せよ」との御教訓及び、「山登りは晴天に限る」といみじくも喝破した岳友の天の声も老人性痴呆症の為か? 総て忘却の彼方に打ち忘れ、濃いガスの中を山頂目指して歩を運ぶ。

甘利山の山頂付近は笹原で樹木がない。若しこの付近で吹雪かれたら退路を断たれるだろう。山頂から少し降り水垂小屋への指導標を右に送り緩い斜面を徐々に登って行く、今日は山慣れない女性や少年がいることから速足厳禁とのリーダーのお言葉であった。

昨日は荒天に備え完全冬山装備で茅ヶ岳に挑んだら夏山のような気候で重荷に喘ぎ、軽荷にと思ったら雨とは誠に以て情けない仕儀。そこが酔狂者のこと、このような天気なら静かな山行が楽しめる、心に余裕を以て歩くと勝手に足が軽くなるから不思議なもの。知らぬまに1,843.4mコル真下に着いた。

山中の散歩はこれまで、それから雪の凍った急斜面を注意深く進み少しなだらかな所で一本立て、アップ・ダウンの繰り返し、またもや急登を過ぎると稜線に出た。地図上の三差路で右は御所山△1,892mへ通じている。そこから少し斜面を登って前方の樹林が疎らになったところに千頭星山三角点が待っていてくれた。

時間もお昼を過ぎているので早速ご飯の支度に取り掛かる。女性軍が昨夜作って呉れたおにぎりや吉田君が重いブスを揚げて呉れたおかげで暖かいラーメンが戴ける、有難いことだ、寒いときはこれに限る。

天候の関係で長居は無用と△Ⅲ 2,138.5mの前で全員記念写真を撮って往路を下山にかかる。今回の山行に横井さんにカメラを持って来て戴き、小生は脚を持参したがスコイことは出来んもんで写真のたびに脚の用意が遅いと皆さんに怒鳴られどうしであった。

甘利山△Ⅲ 1,671.5mは登山路すぐ近く四阿の横に鎮座してござった。付近は濃いガスで景観は望むべきもなく、駐車地点に戻り、一路今日の宿泊予定地、芦安温泉へと車を駆る。

今回の山行は全員余程善行の持ち主と思われる。山はその夜から大荒れであった。

翌日、立ち寄った万安休院の「舞鶴の松」と諏訪大社のテレビで見たご神木は見事であった。

今回の山行を企画して戴いた吉田さん。旅館の心配をして戴いた奥村さん。ハンドルを持って戴いた田村さん。ありがとうございました。

山 梨 の 山 旅 (茅ヶ岳、甘利山、千頭星山)

平成2年5月2日(水)～5日(土)

5月2日(水)晴れ

修学院23:04→出町柳23:26→三条京阪23:40～

5月3日(木)曇り後晴れ

三条京阪0:08→山科外環交差0:17～0:22→京都東I.C.0:25→草津P.A.0:45→伊吹P.A.1:47～2:03→小牧J.C.T.2:50→屏風山P.A.3:17～3:25→阿智P.A.4:08～4:18→諏訪湖S.A.5:17～5:40→韭崎I.C.6:21→大明神登山口(朝食)6:45～7:50→県有林境界8:11R8:30～8:40→林道終点8:45→女岩9:02～9:12→急斜面R9:30～9:35→稜線乗越9:50→深田久弥氏急逝地9:57→茅ヶ岳Ⅱ△1,703.5m(昼食)10:20～11:40→深田氏急逝地11:54→稜線乗越11:56→女岩R12:22～12:30→林道終点12:46→県有林境界R13:03～13:10→登山口13:27～13:45→御岳昇仙峽→甲府市内「武田神社」14:50～15:20→石和温泉「いさわ簡易保険保養センター」(宿泊)15:48

5月4日(金)曇り後雨

「いさわ簡易保険保養センター」8:45→広河原登山口10:10～10:40→甘利山1731.4m→独標1,843m下部11:35→急斜面R11:50～11:55→尾根平坦地R12:06～12:14→稜線の三差路R12:26～12:31→千頭星山Ⅲ△2,138.5m(昼食)12:57～13:55→稜線の三差路R14:17～14:27→尾根平坦地R14:38～14:43→甘利山15:30→甘利山Ⅲ△1,671.5mR15:40～15:50→広河原登山口「グリーンロッジ」「ヒユッテ」(コーヒー)15:55～16:30→南アルプス街道→芦安温泉「岩園館」(宿泊)17:22

5月5日(土)雨後晴れ

「岩園館」8:45→韭崎市「武田八幡宮」9:17～9:23→武川村万休院「舞鶴の松」9:46～9:52→白洲町サントリー白洲工場「サントリー博物館」10:10～11:00→国道20号(甲州街道)→富士見町食事処「かぶと」(昼食)11:28～12:30→諏訪市「諏訪大社上社本宮」12:51～13:22→国道20号→諏訪I.C.13:38→諏訪湖S.A.13:48～14:07→駒ヶ根S.A.14:44～15:00→屏風山P.A.16:12～16:28→小牧J.C.T.17:00→多賀S.A.(夕食)18:35～19:30→草津P.A.20:50～21:00→京都東I.C.21:13→山科外環交差21:15～21:23→三条京阪21:35

[参加者] 吉田F3、原田、田村、奥村、津田F1、石田、横井、その他1名 計12名

〔個人山行〕 3月17日～3月28日

屋久島～口の島～阿蘇の山旅

坂井久光

兼て新ハイ・一等三角点研究会員の富田弘平氏と田中三郎氏等との約束で、屋久島の志戸子岳（907m）一等三角点を再々度挑戦に3月17日出発。大阪南港からサンフラワー号に乗り18日志布志港に上陸、バスで鹿児島へ。月山町の小島旅館で一泊。翌19日8時出帆の屋久島丸に乗船。13時屋久島宮浦港に上陸。暇つぶしに近くの鉈折岳552m三等三角点へ林道の最高点附近より尾根筋に登路を見付けて途中竹藪のジャングルを通過して登頂。みよしや旅館で一泊。夜岳杉旅館で打合。

翌20日6時10分岳杉旅館に一行27人バスで出発。宮の浦林道を進み、昨年、一昨年の少し手前の登路を屋久島産業の社員が休暇をとって案内してくれた。これも富田氏の威光で前通産局長のコネが物言った。

彼は前日に登頂して約3時間で登ったとか。

私が登った谷をへだてた一つ手前の支尾根についた尾根道で、始めは良い道で皆よく登ったが、上の方で案内人が迷って2時間程遅れて、午後2時頃やっと到着。踏跡程度の道で案内人が迷う位の自然歩道で、常緑樹林がうっそうと茂っており、ヘゴノ木始め、珍しい木や山草も生えており、羊歯の茂みをかき分けて登ったり、屋久杉の大切株が残っていたり一同大喜びだった。三角点は岩の間にあったが、三等三角点と同じ15cm角だった。

懐しい屋久島の盟主宮の浦岳が正面によく見えたが、以前北から登った一湊岳は樹林で見えなかったが、途中のピークからはよく見えた。一同感激の万才をやって少時休憩の後下山。6時頃下山して民宿屋久島荘に一同宿泊。屋久島電工から2ダースのビールの差入があった。

翌21日一行と別れ、友人佐藤氏の友人伊藤薫三郎氏を原に訪れたが、留守で息子が対応してくれ、広い園芸庭を案内してくれた。

車で尾間の屋久島温泉に行き、午後愛子岳1,235mの岩峰を登り帰って温泉で汗を流して一泊。

翌22日永田へバスで行き、国割岳へ登りに行ったが、道が悪く一つ手前のピークで折返し、牧旅館に一泊。

翌23日、大牟田青年を紹介して頂いて車で3km程奥の登山口のカレカケ岳の無線塔への林道入口迄送ってくれた。彼は翌日別れの時、グワバー茶を土産にくれた。彼は農大卒で、グワバー茶生産組合長をしており、海亀の研究をしている山好の青年で、幻の屋久杉の巨木を探しているとか。11:20登頂。2等△であった。周囲は樹林で展望は駄目だった。一昨日の愛子岳は展望抜群だったがロープの岩場が2ヶ所あり、岩好の人に人気のある山だ。

国割岳は余り登山家の入らぬ山で踏跡位の道があり迷い易い支尾根が多く、下山の際永田川の谷道へ下り軌道跡の林道に出て永田へ5時半頃帰った。午後雨で大分濡れたが、着換へて風呂に入りさっぱりした。夕食後大牟田さんが訪れ、色々語り合った。

翌日の午後1時発の汽船に乗り鹿児島へ夕方着き、22時出帆の十島丸に乗り、口の島へ。口の島へは25日の早朝5時前に着いたので、民宿はまゆう荘で一休して朝食後セラマ温泉へ行く積

部 員

平成2年5月31日現在

124名

O B 部 員

近藤 薫
森下 村重
伊藤 潤治
中村 維源
牧 定夫
田中 定勝
山村 敏郎
畑 照人
石田 和男
山下 周道
坂井 久光
奥村 弘信
河村 清
北林 修一
松岡伊太郎
津田 実
笈田 昭
横井 襄二
上田 隆
村 宗松
辻 久雄
今井勇一郎
大伴 初代
石田 弘
石川かず栄
北川 晃
森本 清一
楠 とし子

本 局

三浦 貞義
渡辺 智生
長谷川雅也
宮川 勇
山田 富男
足立 公弘
田中 明
平野 裕
前田 文男
関本 俊雄
山元 誠一
大切 照男
方山 宗子
大槻 雅弘
佐々木敏雄
佐伯 康介
三橋 勉
沢井 佳三
川原 傳治
原田加津子
上島 弘子
藪田 民栄
立花 雅彦
若山 裕孝
広瀬光太郎
鎌田 利雄
竹田 勉
大木 秀実
岡本 孝
大杉 雅晴
和田 良一
大槻 貞従
大塚 孝之
政 道代
平田 嘉輝
馬淵 拓己
大野 滋久
猪飼 康夫

田中 忠久
柳田 晃
井上 一夫
古市 晶造
井戸 澄夫
角田 敏昭
山口 雅直
田村 正弘
伊豆蔵 清
鷲見寿未子
大沢 泰
森塚 良郎
岡田 茂久
田中 繁行
鷲見 敏一
岩野 誠司
山岡 昭弘

高 速

出海 洋三
石田 幸次
河合 秀晃
上村 次男
田村 忠司
大倉寛治郎
篠田 勝美
今井 武夫
中島 孝生
矢野 聡
広瀬 烈
竹田 昇雄
木下 嘉造
松田 誠二

西 賀 茂

横田 義一
上島 和彦

梅 津

蛭子野俊雄
吉田 武
徳田 真三

五 条

牧野 健

醍 醐

岡本 勇

横 大 路

岡本 義弘

錦 林

竹村 芳広
徳野 治

九 条

清水 明

烏 丸

坂田 利春
台川 敦美
井上 豊
伊知地文男
戸倉庄之助
久保 忠三
山本 俊夫

洛 西

武田喜久郎
竹井 章
加門 勝弘
井口 寿雄
谷口多加志
服部 正義

市 役 所

中山 忠之
木原 滋
荒田又之助

りで、その鍵を借りて肥後さんの家を訪れた。親切な方で、よもぎ餅を御馳走になり、雨中に傘をさして登山は半ばあきらめ島内見物に出掛けた。島の車道を登って行くと無線塔の道が分岐している。約2.5Kで標高500mの横岳山頂に立った。

一等三角点前岳628mは東にあるが雨の為全然見えない。大名竹のブッシュがあるとかで、今回はあきらめて温泉へ向ったが、途中で会った車の人の話を信じて車道を先に進んだが、一行見当らずあきらめて引返して宿で、濡れた衣類をかかわし入浴してさっぱりして夕食を食べ、9時頃の船で鹿児島へ向った。口の島は野牛やトカラ山羊が生棲する日本の秘境と云われる所で、数年前訪れた中の島より少し小さいが、道路がよく発達しており牧柵が長く続き、草原が広がっていた。人家は北の西之浜と口の島部落のみであった。

月山栈橋に5時前に到着。暫く船内で休んで下船後近くの食堂で朝食をとり市電で西鹿児島駅に行き青春切符を買って熊本へ。昼頃到着。昼食を駅内軽食堂でとり北の国号で阿蘇へ。登山バスに乗換へて西阿蘇駅へ。そこから中岳經由高岳へ砂千里を通して急な山道を登った。軽装で1時間20分で1592mの山頂へ。流石最高点で展望は抜群、阿蘇五岳始め外輪の山々、眼下に阿蘇谷の田園や牧場が広がって見えた。三角点は三等であった。

下山後バスは出た後で、学生の車をヒッチして阿蘇駅へ、JRで大分經由別府に着いたが遅かったので最終便の船も出た後でビジネスホテルで一泊。翌日温泉保養センターへ行って時間をつぶして16:30の関西汽船で28日の7時30分弁天町の阜頭に着き、JRと阪急で9時半頃京都に無事帰宅した。

〔個人山行〕1990年4月15日

北山点標名「中山」

△674・5m登頂報告

津 田 実

例によって酔狂者4名。又もや北山へと車を駆る。

お馴染の周山は柳屋さんでお飲み物を仕入れ、深見のトンネルを抜けると雪国ならぬ、赤い橋が見える。

橋を渡って右折した所で車を止め、とある民家で山頂への登り道がないかと尋ねると親切に教えて戴いた。

地図上、安掛の橋のすぐ上に斜め上に車道が上がっている、それを行き「文」の記号の上に墓場がある、そこまでは道があるが後はないとのこと。充分にお礼をのべ、厚顔にも車を駐車させて戴き出発する。

「文」(これは幼稚園であった。)を過ぎると左側にその墓場があった、土地柄、土葬であることは承知していたが、山の動物に掘り出されないためか、厳重な防備が施されているのに驚く。

余輩60有余歳にして初めてこのような習俗に見参、その不明を恥じる。

閑 話 休 題

墓地を過ぎて谷を遡上、二つ目の堰堤の下で道は終っていた。左側の尾はヤブがキツイので右の

尾を登ると廃道があった。これを進む、然し、これもヤブのなかに消滅、仕方なくエンジン全開、お得意の四輪駆動で急峻なヤブへ突入。ヤブは美濃で鍛えられているので些か自信がある心算だが如何せん肝心のエンジンがポンコツではどうしょうもない忽ちダウン寸前、オーイー服さしてくれ。先輩諸侯に申さないが、そこは、山の友情に助けられなんとか稜線に辿り着く。アァシンド。

主尾根のヤブは斑になり歩き易すそうだ、先程の服で体調は戻り快調に足を延ばし四っほどコルを越えて663の独標で一本立てる。

白雲悠々と書きたいところだが、周囲はガスに隠れ、今にもひと雨来そうなので頑張って歩を進める。人間とは不思議な動物で雨雲に追われると疲れを忘れるらしい、どんどん行くと突然左側が開けた地点が現れ足元に三角点がよろこそと迎えてくれた。恒例の万歳三唱。

天もこれを喜んでくれたのか、一陣の驟雨を以て歓迎してくれた。そこは抜かりのない大槻さんのことツェルトを張ってこれを凌ぐ、小さなテントに四人が入りEPIの燃焼音を聞くと心の安らぎを覚える。

何はともあれ先づはワインで乾杯。各自持参のお弁当をひろげ、楽しい食事となる小生は大槻さんのラーメンを戴く。その内に雨雲も去り、出発となる。

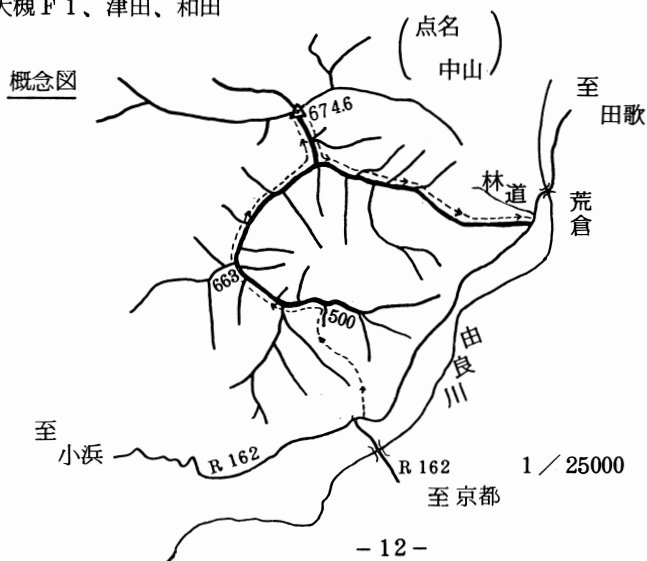
食事地点から少し戻り左手のヤブを掻き分けると大槻さんの指示どおり尾根が現れたので、どんどん下っていく。大槻さんの「左側に注意」の声を聞き乍らも、人間の習性とは悲しいものでどうしても歩き易いほうへと足が向く、二度程「オコラレタ」。読図力の格段の差が歴然と現れる。不覚千番。

それでも何んとか頑張っ雑木林のヤブから杉の植林地帯へと降りて来た。前方に簡易水道の貯水槽が出現。やっとか？やれやれか？無事に降りて来たようだと安心した途端、巨大な長虫の熱烈な歓送をうけて吃驚仰天。腰を抜かして駆け降りたら荒倉林道だった。

〔コースタイム〕

9:25 安掛-9:55 滝-10:32 525m地点-10:40-10:47 尾根-10:55
590m地点-11:23 663m地点-11:33-11:43 650m地点-12:10
△674.6 13:45-14:53 林道(荒倉線)

〔参加者〕 大槻 F1、津田、和田



〔個人山行〕 奥 美 濃

4月21・22日

ワ ン ト ム ツ △ 1 3 1 6 . 3 m

大 槻 雅 弘

ちょっと変わった山名。この山は奥美濃志向の方は良く御存知だが、やはり「黒壁」と言った方が良く知られているかも知れない。

我、京交においては、この山名に特に熱心に調査された伊藤氏のレポートが載っている。ちなみに、少しその経過を再録しておく、

1. 1963.5.9～11に伊藤、田中氏が鳥帽子山～三周ヶ岳を登られた折は、山名も概念図は「黒壁山」であった。(部報128号)
2. 1980.12月338号に「ワントムツとクロカベ」に詳しく山名調査記録が書いてあり「タカマル・鳥ヶ東山・トリガシラ」の山名が出てきて池ノ谷からあおぐ1,316m峰を指して<ワントムツ山>と称したるのが相当……の考証が記されている。
3. 1981.3月341号で、田中氏が伊藤氏へ「ワントムツは鳥帽子山であって、クロカベでないように思う」の一文に対して、伊藤氏の338号の考証で「私はようやくにして、ワントムツに辿りついた。これで私は充分な本望であって、毫もワントムツの山名を、推奨したりするつもりはない。また、近く坂内村で決定される山の称号には進んで呼称していきたい。と考えている」と。
4. 1982.10月360号 鳥ヶ東(ワントムツ)のレポートに、この山名は「高丸」でなければならなかった……。

以上が部報からの「黒壁山」「ワントムツ」の記録等である。

そのワントムツへ、池ノ又谷から一級のヤブを泳いで登って来た。それは、まさに「泳ぐ」のであってヤブを漕ぐのではなかった。平泳のごとく山の中を泳いだ。

昭和50年7月1日岐阜県山岳連盟発行の「ぎふ百山」の「黒壁」のルートを探った。

前夜、池ノ又谷と大松尾谷の出合で一夜を明かし、ピーク1,016mを目指し、池ノ又谷林道終点手前500ぐらいから尾根に取付いた。久しく、手強いヤブにピーク1,016mでは一時目標の山を失ったが、10分程のロスで、軌道修正後待望の三角点に辿り着いた。

三等三角点にしては展望が良く、長年かかって登って来た奥美濃の連山が指呼の間に見えた。

何度か計画しては中止になった山である。奥美濃の山の中でも登りにくい一山であり、頂までの苦しみは仲間と握手した瞬間に大きな喜びとなった。

下りも、登りと変わらず泳ぐ山であった。林道に降り立った時に少し冷たい雨が降り出して来たが、皆んな、それなりの満ち足りた行動に、肌は傘を必要としなかった。

〔参加者〕大槻、他5名

〔コースタイム〕

4月21日 京東IC(14:00)－(17:30)池ノ又谷、大松尾谷出合。テント地。

22日 テント(6:20)…林道取付(6:50)…P1,016m(8:45)…(11:

50)△1,316.3m(12:40)…林道(15:50)…(16:30)テント
(16:50)―帰洛(20:30)

〔個人山行〕 ～亀岡から京都まで～

唐 櫃 越

山 岡 昭 弘

3月7日、曇り、京都駅8時22分発園部行の山陰線に乗車。馬堀駅に集合し、一路「唐櫃越」へと向かいました。

「唐櫃越」は古い記録が残されてきた道で、ここでいくつか文献を紹介してみましょう。

「今ハ四方七ツの道、唐櫃越許アキタレバ国々の運送途絶エ洛中士卒兵糧ニ疲レタリ……」

〔延元元年(1336)〕

「千種頭経 五千餘騎ニテ丹波路唐櫃越ヨリ押寄せ……」〔正平七年(1352)〕

「三好松永等、京に義昭を攻む、將軍方波々伯部他唐櫃越より馳せ参じ……」〔永禄十三年(1569)〕

「唐櫃越」は古くは丹波地方と京の都を結ぶ軍道であったようです。(文献は、山と高原地図④9 京都西山より引用しました。)

新しい馬堀駅から旧馬堀駅前を東へ向かい団地の中を通り抜けて15分程歩くと「唐櫃越」入口に到着です。途中、みすぎ山とその手前のピークが見えていました。

ゆるやかな坂を5分程歩くと鉄塔と柵があり、柵のむこうに道が続いていたので、柵の扉を開けて進みました。(鍵はかかかっていなかった。)

しばらくすると尾根へ出、振り返ってみると、つつじが丘団地方面が良く見えていました。やがて谷に入り、木立ちの中を進み、ピーク(392m)の手前を右へ、みすぎ山(430m)に着いたのは10時過ぎでした。

三角点の近くに鉄塔があり、そこから正面に愛宕山が見えていました。

小休止の後、沓掛山へと向かうのですが、新しい鉄塔(みすぎ山頂からすぐ東に見える)ができていて、ルートが変わっており、新しい鉄塔のそばを通り、次のピーク(412m)との鞍部を通りました。

途中の小さな水たまりの中で、カエルの卵を見つけました。無事にカエルになれよと祈りつつ、踏みつけまいよう注意して進みました。

約40分程歩くと、山陰線複線電化工事現場の裏に出、そして林道へと出ていきました。ここから約30分林道を歩き、林道と唐櫃越との分岐で昼食をとりました。この林道は工事車専用で一般車は入れない旨、通りがかりのトラックの運転手が話していました。

分岐を過ぎ、ピーク(424m)を踏んで約30分程歩くと、沓掛山への分岐があり、分岐を左へ歩くと間もなく沓掛山(415m)に着きました。山頂からの見晴らしはあまり良くなく、南の方角、木々の間から、西京桂坂ニュータウンが見えただけでした。

小休止の後、先程の分岐まで戻り、上桂の方へと向かいました。松尾林道分岐を過ぎ、進んでいたのですが、道を誤り、唐櫃越からはずれて、西京桂坂ニュータウン造成地の北のはずれに降りてしまいました。(ちゃんと道を示すテープどおりに進んだのに……)仕方がないので、造成地の縁を東へ15分程歩き、竹藪の中に道が見えたので、その道を北へと歩きました。10分程歩き、地図で位置を確かめ、竹藪の中を約30m登って、やっと唐櫃越に戻ることができました。

ここからはゆるやかな下り坂、15分程で浄住寺(竹の寺)奥の墓地に出て、その中を通り抜けて、阪急嵐山線上桂駅に着いたのは15時30分でした。

[参加者] 大西 護、大倉寛治郎、松田 誠二、西尾 直樹(市役所)、山岡 昭弘

[コースタイム]

JR馬堀駅9:00→唐櫃越入口9:15→みすぎ山10:04~10:16→林道分岐(昼食)
11:25~12:30→沓掛山13:08~13:25→西京桂坂ニュータウン北14:40
→唐櫃越にもどる15:05→浄住寺15:21→阪急上桂駅15:30

例会報告

| 例会№ | 目的地 | 月日 | 天候 | 担当者 | 参加者 | 記事 |
|------|------------------------|---------------|----|-------|---|------------|
| 1781 | 皆子山 | 4月14日 | | 山岡 昭弘 | | 中止しました。 |
| 1782 | 願教寺山 | 4月14日 ~15日 | | 三橋 勉 | | 中止。(無雪のため) |
| 1783 | 大山 (三原山) | 4月29日 | | 岡田 茂久 | 津田、横井、 古市、渡辺 F1 和田 F1、方山、山岡 F1、西尾 近藤、馬淵、奥村 | 別稿詳報 |
| 1784 | 馬のタテガミ | 4月29日 ~30日 | | 三橋 勉 | | 延期しました。 |
| 1785 | 笈ヶ岳 | 5月 3日 ~5日 | | 大槻 雅弘 | 三橋(勉)、他2名 | 別稿詳報 |
| 1779 | 麻布2等と 前黒法師岳 | 4月 7日 ~8日 | | 三橋 勉 | 伊藤潤治外1名 | 別稿詳報 |
| 追加例会 | 山梨、茅ヶ岳 甘利山、千頭星 山 | 5月 2日 ~5日 | | 吉田 武 | 吉田 F3、原田 田村、奥村、 津田 F1、石田、横井、その他 1名 | 別稿詳報 |

部 員 動 静

| 目 的 地 | 月 日 | 天候 | 参加者 | 記 事 |
|---|---------------|----------|-----------------------------|--|
| 屋久島～口の島 ～阿蘇 | 3月17日 ～28日 | | 坂井 久光 | 別稿詳報 |
| 北山点名 「中山」 | 4月15日 | | 津田、大槻 F1、和田 | 別稿詳報 |
| 奥美濃 ワントムヅ | 4月21日 | | 大槻 雅弘 他5名 | 別稿詳報 |
| 青 葉 山 | 5月 6日 | 晴 | 大槻 雅弘 F1 | 久しぶり、海の見える山へ登りたいと思った。頂で地元山岳会の人に、ハクサンオミナエシを大きくした黄色花で「オオキンレイカ」という花が世界でこしかなないという話を聞いた。又、普通、東峰、西峰と言っているが、下り今寺の人に、下の部落の名を採って、西から小さなお宮があるのを松尾の青葉、西峰を今寺青葉、東峰を高野青葉山と呼んでいると教わった。地元の人と話をするのはいろいろな事を教わり勉強になるものと、今回は素晴らしい展望と、時には白山まで見えるということ等、収穫の多い山行であった。 |
| 広島 の山々 | 5月 5日 ～6日 | 雨の ち晴 | 三橋 勉 伊藤 潤治 | 5日朝7時どしゃ降りの中国自動車道を東城ICまで走ると晴れてきて、二子山と一等△星居山にドライブ登山をし、テント地として大黒目山一等△(802m)のふもとの池で泊り、翌朝その一等を登り、道後山の手前の二等△猫山(1,195m)に登り、帰りに三等△多飯ヶ辻山(1,040m)に登り、午後7時に中国自動車道を走り11時すぎに京都へ帰ってきた。 |
| 唐 櫃 越 | 3月17日 | | 山岡 昭弘 | 別稿詳報 |
| 小佐波御前山 △754.2 | 5月19日 | 曇 | 大槻 雅弘 三橋 勉 大槻 貞従 他 | 富山市の南、神通川の東に位置する。2等3角点。よく整備された遊歩道を1時間余りで笹の中に標石を見つけた。 |
| 濁 谷 山 △1,238.0 | 5月20日 | 晴 | 〃 | 富山にある1等3角点、10点のうち、登山道がなく、登りにくい山の一つである。しかし展望はよく、立山・剣・毛勝山等さすが一等だけはある。小生としては5山目である。 (大槻 雅弘) |

雑 報

✿ 他山岳会の会報（受贈分）

5月号 北山（北山クラブ）、近畿山行（近畿山行社）、木雞（好山好会）、趣味の登山（京都趣味登山会）、山友（京都山友会）、京都山岳（京都山岳会）、愛宕ニュース（京都愛宕山岳会）

4月号 青嶺（京都山の会）

烏帽子135号、136号（新宮山の会）、愛宕ニュース1～2月号、3～4月号

✿ 無雪期救助訓練・救助隊員全員集会の案内

京都府山岳連盟遭難対策委員会

実施山城 雲取山一帯

日 時 6月16日（土）～17日（日）

集合場所 花背別所町〔平安学舎〕京都バス花背高原前下車

京都バスの広河原行は出町柳駅初発です。（13:50、18:15）

参加費 1,000円（保険代含む）

訓練内容 搜索、救助、訓練

1. 搜索技術…情報、山城、読図、無線
2. 救助技術…救護方法
3. 搬送技術…人力搬送、ヘリ、その他の方法

備 考 参加希望者は検車区 大倉（☎3371）まで

6月13日（水）にミーティングを行います。

✿ 北山方面ゆきバス発車時刻の変更

出町柳駅発 広河原行7:50（平日、休日共）

〃 葛川梅の木行7:35（平日、休日共）

〃 雲ヶ畑行7:40（平日）、8:30（休日）

5月集会参加者

5月11日 厚生会館

岡田、大槻（雅）、吉田

大倉、三橋、和田、方山

山岡、奥村、横井、井戸

11名

✿ 退部のお知らせ

O B 渡辺 朋子

✿ 例会予告〔第1793回〕

飛驒の一等三角点

川 上 岳

日 時 6月30日～7月 1日 土曜夜発

担当者 大槻（雅）（☎544）

備 考 参加希望者には別途案内を送ります。

❁ 予 告 「夏山合宿計画」

平成2年7月26日(木)夜発～7月31日(火)まで。

登山ルート 20万図富山、5万図糸魚川、小滝、泊、黒部、白馬岳

7月26日夜行バスで27日朝白馬駅前着、現地バスにて猿倉終点まで入る。

| | | | | |
|---------------|------|--------------|------|------------|
| | 1:00 | 2:00 | 2:00 | |
| 27日 猿倉 | ……… | 白馬尻小屋 | ……… | 葱平 |
| | | 大雪溪 | | 小雪溪 |
| | 0:40 | 0:30 | 2:00 | 2:00 |
| 28日 白馬キャンプ地 | ……… | 白馬岳1等 | ……… | 三国境 |
| | | (2,933m) | | 雪倉岳 |
| | | | | (2,610.9m) |
| | 1:45 | | | |
| 赤男山(2,040m) | ……… | 朝日小屋キャンプ地(泊) | 6:55 | |
| 下小桜ガ原 | | | | |
| | 1:00 | 1:30 | 4:24 | 2:18 |
| 29日 朝日小屋キャンプ地 | ……… | 朝日岳 | ……… | 長梅山 |
| | | (2,428.3m) | | サワガニ山 |
| | 0:18 | | | |
| 犬ヶ岳 | ……… | 梅海山荘(泊) | 9:13 | |
| | 1:24 | 0:14 | 1:50 | 0:45 |
| 30日 梅海山荘 | ……… | 黄蓮山 | ……… | 菊石山 |
| | | (1,291m) | | (1,210m) |
| | | | | (1,287m) |
| | 1:09 | 1:42 | | |
| 坂田峠 | ……… | 尻高山 | ……… | 梅海新道登山口 |
| | | (677m) | | 7:13 |

夏山合宿『白馬から日本海まで』を楽しく行なうためにトレーニングを下記のとおり計画しました。 *参加希望者は必ずトレーニングに参加してください*

- 日 時 5月20日(日)午前7時北大路バスターミナル時計台集合
金毘羅ワイケン尾根から天ガ岳往復、担架重量15kg
- 5月27日(日)午前9時清滝の橋(駐車場)の所集合
清滝より梨木谷、首無地藏から愛宕神社、清滝 担架重量20kg
- 6月 9日(土)午前7時20分京都バス出町柳駅集合 * 7時35分発梅ノ木行に乗車 *
平～権現山～小女郎峠～蓬萊山～打見山～金糞峠～比良ロッジ～比良駅 担架重量15kg
- 6月23日(土)～24日(日)テント泊 午後1時出発
* 行先は参加者に連絡します
- 7月 7日(土)～8日(日)テント泊 午前7時京都駅正面観光バス乗り場
鈴鹿藤内 前尾根

担当者 検車区 3371 大倉寛治郎 『参加希望者は担当』まで連絡をください

❁ 平成2年度厚生会登山「妙高山」トレーニング<予告>

愛宕山

日時 7月22日(日)

集合 AM9:00清滝

担当者 岡田、大槻(雅)

❁ 部報バックナンバーのお知らせ

№395('85.9月号)~№451('90.5月号)の部報に少し残りがります。

(欠番412、410、401~398、396)

部報のバックナンバー希望の方は、下記まで連絡または直接取りに来て下さい。

設備課 井上(本局厚生会館3F) ☎822-9179(750)

尚、部報保存分以外は'90年6月末に廃棄処分します。



結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88

TEL (075)771-3442

帆 布 ・ 濾 布
テント ・ シート
雨 合 羽

木村工業有限会社

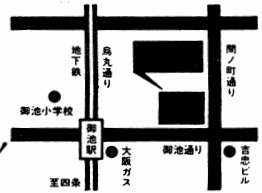
京都市中京区ミズ車庫前
TEL 801-5331 (代)

西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports
ハイキング&キャンプ・クライミング
アウトドアウェア・US産用品
ポイスカフト用品



〒604 京都市中京区三条通河原町西入
TEL 075(268)-0548
●営業時間 AM10:00~PM8:00 毎週火曜定休
(株) スポーツ コニシ

●技術とサービスの創る!印刷

株式会社

北斗プリント社

タイプ・写植オフセット印刷 ● 電子写真印刷

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)

TEL(075)791-6125(代)
FAX(075)791-7290

お知らせ

御得意様各位

平素は、格別のお引き立てにあずかり厚く
御礼申し上げます。

昭和63年6月より、新住所にて営業致します。
旧倍に増して、御来店の程心よりお待ち申し
上げます。

記

新住所 〒600 京都市下京区^{ミナト}不明門通り六条下る西側
(烏丸通りより1筋東の通り)
TEL 075-351-6598(代)

(株) 小林地函専門店

平成2年6月1日

京都市中京区壬生坊城町 48

京都市交通局内

京交山岳部